



まなびの  
ポケット

感じる→考える

## 自分で考える力!

乳幼児でも、常に脳をフル回転させて考えています。例えば、玩具を口の中に入れる行動は、感触等や何かを確かめるという確認作業です。感触などを「感じる」ことで、考える力がどんどん育っているとと言えます。

### 実体験・感覚言葉・会話が大事!

この時期は、つるつる・ざらざらなどの感覚言葉をたくさん使いながら、触ったり見たりする**体験**を増やしましょう。言語の理解が進むと、考える力はますます発達してきます。日常生活の中でたくさん**会話**をすることで身の回りのことへ興味関心が高まり、考える力につながります。

「これはお母さんの大好きな花、いいにおいがするでしょ。きれいな色ね」「これは何というの」「チューリップよ」  
(例：大好きな人が好きなことやモノについての会話)

### 先回りせずに、考える時間をつくりましょう!

子どもが、言葉でやり取りができる年齢になると、大人はつい「こうして」「ああして」と**指示が増えて**いきます。もしかするとそれは、子どもが考える力を奪っている可能性もあるかもしれません。「次は何だっけ?」「どうすればいいかな?」と、できるだけ子ども**自身に考える時間**をつくりましょう。

どうして  
かな?

何で  
だろう?

調べて  
みよう!

〇〇は  
どう思う?  
(3歳以降)